

(技術名) パインアップル「ボゴール」の八重山地域における花芽誘導処理の適期							
(要約) <u>八重山地域</u> における「ボゴール」の <u>露地栽培</u> において、10月上旬および中旬に <u>花芽誘導処理</u> すると、4月上旬から5月中旬に <u>良食味果実</u> を収穫でき、11月に花芽誘導処理した果実より <u>小果腐敗病</u> の発生も少ない。							
農業研究センター石垣支所					連絡先	0980-82-4067	
部会名	果樹	専門	栽培	対象	パインアップル	分類	普及
普及対象地域	八重山地域						

[背景・ねらい]

八重山地域における生食用パインアップル品種「ボゴール」は、主に10月から11月にかけての花芽誘導処理（以下、「誘導」）により出蕾させる促進夏実体系で出荷される他、一部は冬場の低温で自然出蕾する自然夏実体系でも出荷される。「ボゴール」では、2011年度の普及に移す技術にて、八重山地域における誘導月ごとの果汁品質や収穫時期が明らかにされている。しかしながら、生産者や生産団体において計画的出荷を行うためには、より短い誘導間隔での果汁品質や収穫時期の情報が求められている。また、過年度の成績では、出荷時に大きな問題となる小果腐敗病の誘導時期別での発生率についても明らかにされていない。

そこで、本研究では、八重山地域の主要栽培体系である露地栽培の夏植えー促進夏実において、「ボゴール」の高品質果実を安定生産するため、9月下旬から11月下旬まで旬ごとに誘導を行い、糖酸比18以上となる良食味果実を収穫できる誘導時期を明らかにするとともに、小果腐敗病発生の少ない誘導時期についても明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 糖酸比の平均値は、10月上旬以降に誘導して得られる果実（以下、「誘導果」）において、18以上となる（図1）。
2. 良食味果実が占める割合は、10月上旬以降の誘導果において、8割以上となる（図1）。
3. 10月上旬および中旬の誘導果における小果腐敗病発生果率は、11月以降の誘導果より低い（図2）。
4. 10月上旬および中旬の誘導果はおおむね4月上旬から5月中旬にかけて収穫される（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 生産組合や生産農家において、「ボゴール」の誘導時期を検討する際の参考資料として活用する。
2. 誘導は、エテホン1,000倍希釈液に重量比で3%の尿素を加えた溶液30mLを、誘導前年に植付けた夏植え株の葉芯へ灌注処理することで行った。また、自然夏実については、収穫前々年に植付けた夏植え株から収穫した。
3. 本技術は、農業研究センター石垣支所において、2014年4月から2024年7月にかけて健全株から収穫した果実の分析結果を取りまとめたものである。

[具体的データ]

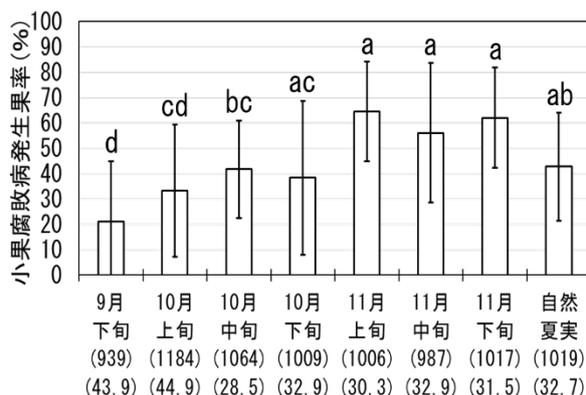
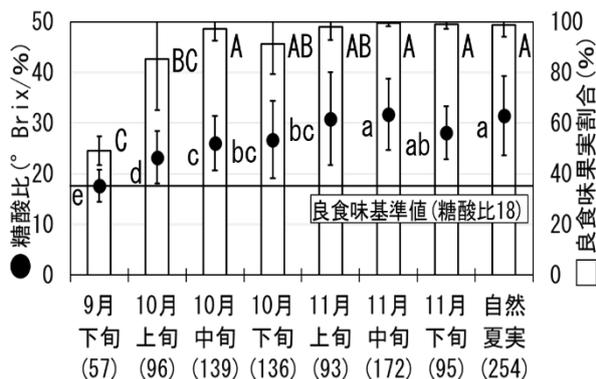


図1 誘導時期別の糖酸比および良食味果実割合
 注1) 図中の黒丸は糖酸比の平均値、棒グラフは全供試果実における良食味果実割合、エラーバーは糖酸比または調査年ごとの良食味果実割合の標準偏差を示す。
 注2) 括弧内の数値は供試果実数を示す。
 注3) 同一符号を共有しない誘導時期間には有意差あり (説明変数を誘導時期、調査年をランダム効果とした一般化線形混合モデルについて、Tukey 多重比較を行った (P<0.05)。なお、糖酸比はガンマ分布を仮定してリンク関数を log とし、良食味果実割合は二項分布を仮定してリンク関数を logit とした。)

図2 誘導時期別の小果腐敗病発生果率
 注1) 図中の値は全供試果実における小果腐敗病発生果率、エラーバーは調査年ごとの小果腐敗病発生果率の標準偏差を示す。
 注2) 上段の括弧内の数値は供試果実の平均果実重(g)、下段の括弧内の数値は収穫時における果皮着色程度 (%) の平均値を示す。
 注3) 同一符号を共有しない誘導時期間には有意差あり (説明変数を誘導時期、調査年をランダム効果、二項分布を仮定してリンク関数を logit とした一般化線形混合モデルについて、Tukey 多重比較を行った (P<0.05))。

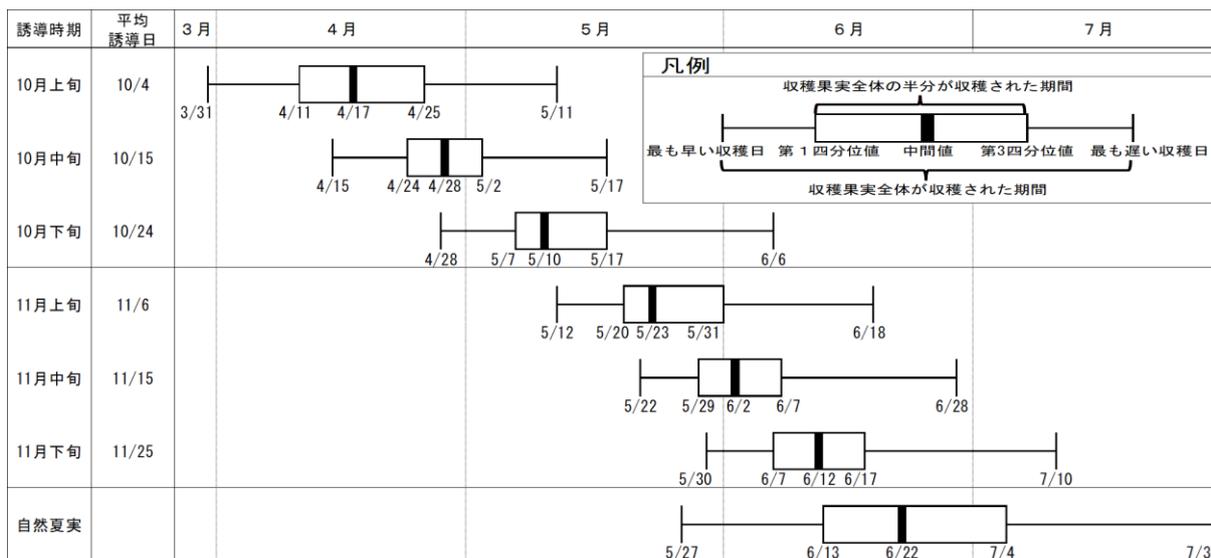


図3 八重山地域において良食味果実を収穫できる誘導時期別での収穫時期(2014~24年収穫果実)

[その他]

課題 ID : 2013 農 003、2019 農 001、2022 農 012

研究課題名 : 気候変動に対応した沖縄型果樹農業技術開発事業

気候変動対応型果樹農業技術開発事業

生食用パインアップル「沖農 P19」等における高品質安定生産技術の確立

予算区分 : 沖縄県特別推進交付金 (気候変動対応型果樹農業技術開発事業、気候変動に対応した沖縄型果樹農業技術開発事業)

県単 (生食用パインアップル普及促進事業)

研究期間 (事業全体の期間) : 2014~2023 年度 (2014~2024 年度)

研究担当者 : 與那覇至、武末翔馬、仲村昌剛、東嘉弥真勇人、宮里進

発表論文等 : なし